



中 尾 利 香
(自民公明クラブ)

保育士を目指す方へ支援を

活用できる制度の周知に努める

問 保育士を目指す方への支援として、市内の保育施設に何年か勤めた場合に返還が免除されるような、修学資金貸付事業を行う考えは。

答 県社会福祉協議会において、一定の条件を満たした場合に返還が免除される保育士修学資金等貸付事業を行っており、希望する方が制度を活用できるよう周知に努めます。

問 奥入瀬渓流の渋滞対策の状況と課題は。

答 5月、10月の特に渋滞が予想される土日に、市、環境省等で組織する十和田湖周辺交通渋滞対策協議会の職員を配置し、渋滞緩和に努めています。一定の効果は見られますが、抜本的な解決には奥入瀬バイパスの早期完成が必要と考えており、引き続き国に要望していきます。

問 幼稚園、保育園でのフッ化物洗口の実施状況と市の見解は。

答 子供の頃からの虫歯予防は、大人になってからも豊かな人生を送るために大切な取組です。今年度は、市内26施設において保護者の同意を得た園児に対し、週1回フッ化物洗口を実施しており、今後も関係機関と連携、協力し、保護者への意識づけを図りながら、取組を進めます。

問 支援が必要な子供の保護者は、入学前の早い段階から学校の情報を知りたいと思うが、進学に向けた情報をどのように提供しているのか。

答 実態を把握している学級担任や特別支援コーディネーターが相談に対応しているほか、教育委員会でも必要に応じて進学に向けた情報提供を行っています。また、学校での支援内容や転入学等の相談先等を記載したパンフレットを作成し、市ホームページに掲載しています。



氣 田 量 子
(自民公明クラブ)

セーフコミュニティ 推進条例の制定を

必要性について検討する

問 令和6年11月に4回目の国際認証を取得した当市のセーフコミュニティの取組を次世代に受け継ぎ、さらに発展させるため、セーフコミュニティ推進条例を制定する考えは。

答 助け合いの精神によるまちづくりの実現を目的とした安全で安心なまちづくり条例は同様の理念であると考えており、現行条例の改正や新たな条例制定の必要性について検討します。

問 市民にはセーフコミュニティ活動が十分に認知されていないと感じるが、改善策は。

答 今年度、普及啓発を目的にイベントを開催し、多くの方が関心を寄せていました。今後も同様のイベントを開催し、周知に努めます。

問 爪や衣類に貼るだけで利用できるQRコードシールを用いた身元確認支援サービスは、視認性が高く、GPS端末を持ち歩けない方にも対応可能で、認知症高齢者の早期発見や家族の不安軽減が期待されるが、導入の考えは。

答 課題等を整理し、導入の有用性について検討したいと考えています。

問 人種、性別、障害の有無などの違いを尊重し、多様なバックグラウンドを持つ人々が安心して暮らせる環境を整備するダイバーシティ（多様性）の推進は、地域の課題解決や新たな発展、住民全体の幸福度向上につながると考える。アンケートで市民の意見を聞く考えは。

答 来年度、第2次十和田市総合計画の次期計画策定に向けた市民アンケートを実施する際、ダイバーシティ推進の視点も取り入れます。

問 外国人住民への支援状況は。

答 市防災マップを4か国語に翻訳し、市ホームページへ公開したほか、生活関連情報ページの翻訳言語にベトナム語を追加しました。